

第42回東北建築賞作品賞選考報告

選考委員長 増田 聡

1. 応募作品

| | |
|-----------|-------|
| ・小規模建築物部門 | 16 作品 |
| ・一般建築物部門 | 24 作品 |
| 計 | 40 作品 |

2. 選考経過

- (1) 事前打ち合わせ会議 2021年9月16日(木) 10:30~11:30
於 日本建築学会東北支部会議室

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

- (2) 東北建築作品発表会 2021年10月9日(土) 9:30~16:30
於 オンライン (Zoom)

第31回東北建築作品発表会において応募された作品の発表が行われた。初めてのオンライン開催ということで行き届かなかったところもあったが、限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

- (3) 第1次審査会 2021年10月9日(土) 17:00~18:00
於 オンライン (Zoom)

東北建築作品発表会終了後、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第1次審査を行った。小規模建築物部門と一般建築物部門を別々に選考せず、まとめて投票することになった。全作品の中から一人10票以内で投票することとなり、各委員の投票および発表内容を総合的に考慮した結果、小規模建築物部門5作品、一般建築物部門10作品、合計15作品を第1次審査通過とした。

次に、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された15作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、施設管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行うこととした。

なお、1次審査の落選者へは200字程度の講評を選考委員分担で作成し、選考委員会として送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については11月と12月に選考委員で分担して実施した。

- (5) 第2次審査 2022年1月8日(土) 13:00~17:00
於 日本建築学会東北支部会議室

まず、増田委員長より全体の進め方と評価ポイントの確認があった。その後、1作品ずつ現地審査担当委員からパワーポイント等を活用して報告がなされた後、ほかに現地を確認した担当委員からも印象や評価すべき点を報告した。報告を受けて、それぞれの作品ごとに、審査の評価ポイント等についての討議を選考委員全員で行った。すべての作品の紹介と討議が終わった後に、出席の全委員による投票を行った。投票に当たっては、昨年度は東北建築賞の募集がなかったこと、今年度は対象期間を延長して募集をしており、応募数が40と例年よりも多くあったこと、などを踏まえて投票数を決定した。また、特別賞は特筆すべき点がある作品と、佳作として評価できる作品を対象とすることを確認した。

投票の結果、作品賞は一般建築物部門から5作品、小規模建築物部門から3作品の、合計8作品が選定された。特別賞については、一般建築物部門、小規模部門から各1作品が選定された。

(6) 総評

今回の受賞作品の多くが民間建築で、とりわけ住宅（戸建 2 件、集合 1 件）で個性的な作品が目につきました。また、地域コミュニティでの利用や開放を意識した作品もあり、個と共を考えさせられる豊かな取組だといえます。一方、公共建築では、震災復興後に移転新設で建てられた学校 2 件、庁舎 1 件も選出されました。今回の受賞作品に限らず、震災から 10 年以上が経過して被災各地に新たな地域行政・教育・福祉・観光などを担う施設が多数整備されました。その中で受賞作品のプラン・形態や構造に込められた「設計意図や優れた試み」が十二分に活かされていくことが期待され、コミュニティ再生や生活再建に果たす建築空間の役割を再確認する選考作業となりました。その他の受賞作品でも、立地環境を丁寧に読み取り、地域景観との相互作用やまちづくりへの貢献に配慮したものも多く、好感を持つことができました。

(7) 選考結果

「作品賞」8 作品

小規模建築物部門

◆木町通の家

【施 主】 宍戸 潤平 宍戸 佳

【設計監理】 SATO+ARCHITECTS

基本設計 佐藤充、真島嵩啓（元所員）

実施設計 佐藤充、真島嵩啓（元所員）

構造設計 図設計 高橋雷人

【施 工】 共栄ハウジング 鈴木渉

◆噺館（はなしごや）

【施 主】 峰田順一

【所 在 地】 山形県東村山郡山辺町山辺15

【設計監理】 本木大介建築設計事務所 本木大介

構造設計：株式会社丹羽設計事務所 丹羽邦弘

【施 工】 建築：愛和建设株式会社

電気：株式会社東照電気

空調：山形環境システム株式会社

衛生：株式会社フカセ

外構：八松園株式会社、施主友人

◆あさひ会計 セミナー棟

【施 主】 株式会社 旭ブレインズ

【所 在 地】 山形県山形市

【設計監理】 古谷誠章+NASCA

意匠：NASCA / 古谷誠章、杉下浩平、大森葉月
構造：木下洋介構造計画 / 木下洋介
機械設備：連設備コンサルタント / 古瀬準一
電気設備：アーキシステムエンジニア / 渡邊貴則
サイン・ロゴ：甘利デザイン事務所 / 甘利弘樹

【施 工】 建築：株式会社 市村工務店
機械：株式会社 ユアテック
電気：株式会社 ユアテック
家具：Celia

一般建築物部門

◆金蛇水神社外苑 SandoTerrace

【施 主】 金蛇水神社
【所 在 地】 宮城県岩沼市三色吉字水神 11-1
【設計監理】 建築：齋藤和哉建築設計事務所 担当／齋藤和哉 高橋雅人
構造：yAt 構造設計事務所 担当／中畠敦広
設備：E.I.S 設備計画 担当／高橋和弘 小野寺彰
照明：岡安泉照明設計事務所 担当／岡安泉
サイン：BLMU 担当／松井健太郎 桑原大輝
【施 工】 建築：松井建設東北支店 担当／遊佐敏明 足立孝雄
機械：宮春工業 担当／三浦元
電気：北上電設工業 担当／大浦友己 阿部貴志
造園：岩沼造園土木 担当／大友宗一 大友晃

◆釜石市立唐丹小学校・釜石市立唐丹中学校・釜石市唐丹児童館

【施 主】 釜石市
【所 在 地】 岩手県釜石市唐丹町小白浜町 314
【設計監理】 建築：有限会社乾久美子建築設計事務所 乾久美子
株式会社東京建設コンサルタント 前田格
構造：株式会社 KAP 岡村 仁、石川敬一
設備：株式会社エンジニアリング 松石道典、高山浩、川村光
植栽：株式会社プランタゴ 田瀬理夫
株式会社ヒュマス 高沖哉、露田亮祐
サイン：菊地敦己事務所 菊地敦己、玉村広雅、佐藤謙行
照明：ぼんぼり光環境計画株式会社 角館まさひで、竹内俊雄
【施 工】 前田・新光特定建設工事共同企業体
株式会社ユアテック

◆ロカド香久山

【施 主】 トラスホーム株式会社

【所 在 地】 福島県郡山市七ツ池町

【設計監理】 株式会社ブルースタジオ

基本設計：株式会社ブルースタジオ／大島芳彦、谷田恭平、立川慧

実施設計：陰山建設株式会社／

サイン・ロゴ：株式会社ブルースタジオ／大島芳彦、大木錦之介

植栽計画：有限会社温室／塚田有一

【施 工】 建築：陰山建設株式会社

電気設備：岡部電設株式会社

機械設備：有限会社カナメダ

◆陸前高田市立気仙小学校

【施 主】 陸前高田市

【所 在 地】 岩手県陸前高田市気仙町字愛宕下 1 番地 5

【設計監理】 綾井新建築設計 綾井新

土屋辰之助アトリエ 土屋辰之助

教育環境研究所 長澤悟 野島直樹

構造：KAP 萩生田秀之

設備：環境エンジニアリング 南井克夫

ランドスケープ：小野寺康都市設計事務所 小野寺康

【施 工】 佐武建設

◆弘前れんが倉庫美術館

ミュージアム棟

【施 主】 弘前市

【所 在 地】 青森県弘前市吉野町 2-1

【建築設計】 Atelier Tsuyoshi Tane Architects

【設計統括】 NTT ファシリティーズ、NTT ファシリティーズ東北

【構造設計】 大林組、スターツ CAM

【設備設計】 森村設計

【照明設計】 岡安泉照明設計事務所

【運 営】 エヌ・アンド・エー

【施 工】 スターツ CAM、大林組、南建設共同企業体

カフェ・ショップ棟

【施 主】 弘前賑わい創造

【所 在 地】 青森県弘前市吉野町 2-11

【建築設計】 Atelier Tsuyoshi Tane Architects

【設計統括】 スターツ CAM

【構造設計】 yasuihirokaneda STRUCTURE、スターツ CAM

【設備設計】 スターツ CAM

【照明設計】 岡安泉照明設計事務所

【施 工】 西村組

【設計協力】 株式会社 CUP

「特別賞」2 作品

小規模建築物部門

◆副都心下の受光する住器

【施 主】 鈴木勝昭

【所 在 地】 宮城県仙台市

【設計監理】 有限会社都市建築設計集団/UAPP 手島浩之

環境計画監修：東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻 小林光

構造設計：皆本建築工房 皆本功

【施 工】 株式会社気仙沼工務店

一般建築物部門

◆山元町役場

【施 主】 山元町

【所 在 地】 宮城県亶理郡山元町浅生原字作田山 32

【設計監理】 建築：CAt/小嶋一浩、赤松佳珠子、大村真也

構造：オーク構造設計 / 新谷真人

空調・衛生：科学応用冷暖研究所 / 高間三郎

電気：EOS plus / 遠藤和広

建築・外構：SOY source architects / 安田直民

【施 工】 建築・外構：加賀田組

空調・衛生：三建設備工業

電気：ユアテック

(8) 講評

作品賞

【木町通の家】

この住宅は、仙台市中心部にほど近い準防火地域の、軽自動車すら侵入できない狭隘道路に沿って8軒の住宅が密集する、武家屋敷跡の割譲敷地にあります。狭隘道路とはいうものの、そこは入口から住宅1軒分通り抜けると幅4mほどの袋小路であり、親密さが感じられます。この雰囲気は敷地内に引き込む半屋外の「路地」は、地域と連続する庭や玄関である以上の役割を果たしています。すなわちリビングの続き間であり、在宅ワークの書斎であり、別の部屋にいる家族の気配を互いに感じる交差点であり、シアターであり、耐火外壁の一部であり、採光・換気の緩衝空間でもあります。特に、防火シャッターを「路地」の入口に設けたことで、法規上、「路地」に面する壁や開口部サッシは耐火性が不要になり、さらに隣家に向けた外周壁面に開口部をほとんど設けなかったことから、ローコスト化と高断熱化(UA値0.43W/m²K)を実現しています。このように、地域の特徴を生かした新たな都市型住宅の典型を示したことにより、東北建築賞作品賞に値すると評価されました。

【嘶館（はなしごや）】

嘶家を呼んで寄席を開き、みんなで落語を楽しむための小規模スペースです。しっかりとした高座が備えられた本格的な寄席の場が整えられており、客席は土間で落語を聞きに来た人たちは気兼ねなく寄席の場にアクセスすることができます。また、遠方から来る嘶家をもてなし、寛いでもらうための宿泊スペースを完備しており、全面窓となっている東側からは蔵王連峰が一望できるなど、敷地が持つロケーションの魅力を最大限に引き出している計画となっています。寄席の場と野外との連結もスムーズで十分に整えられており、寄席だけではなく様々な小規模イベントに対応できそうな拡張性と開放性を感じます。本作品は一言で表現すれば、「嘶家を呼んで寄席を開く小規模スペース」ということとなりますが、その一言には収まらない「楽しさ」と「遊び心」に満ちた空間です。仲間内で楽しむことを出発点に計画されたと思われる建物が、開放的な楽しさや遊び心でもって人々を惹きつけ、結果として良質な「地域のコミュニティ形成」を実現する、まさに代表的な例と言えるでしょう。このような空間を個人で管理していくことは大変な面も多いと感じますが、地域の中心的施設として末永くあり続けることを期待します。

【あさひ会計 セミナー棟】

山形市の玄関口にあたる、山形駅から山形県庁に向かう大通りに面した会計事務所のセミナー棟として建築されたものです。鉄骨造を主体としながら、印象的なファサードを構成するスギ無垢材による水平ルーバーは耐風などの構造要素としても活かされ、屋根架構には天井仕上げ材を兼ねるLVL材を用いるなど、ふんだんに木材を利用して柔らかい印象を与えている建物となっています。2階のセミナールームは、連続する切妻屋根とハイサイドライトを活かした魅力的な大空間になっています。1階のオフィス・ラウンジも、考え抜かれた使い勝手とセキュリティ確保の要求の双方を、高い水準で実現しています。会計事務所という性格上、広く一般に開放するといった使い方には馴染みませんが、位置する大通りの中で外との繋がり拒絶することなく、既存の建屋とも融合して地域の景観に寄与することに成功しています。これらの点を踏まえて、東北建築賞に値すると評価されました。

【金蛇水神社外苑 Sando Terrace】

Sando Terraceは、岩沼市にある金蛇水神社の外苑に新築された木造建築で、JIA主催設計競技(2017年度)で最優秀賞を受賞し設計者が選出されました。建物は90度の円弧を描いた屋根付きの参道で、両脇に飲食店と地元特産品のショップ等が配置されています。参拝者は先が見通せないトンネルを通ることで、その先に見える本殿や広場がより明るく感じる効果が生じ、世と俗の切替装置として見事に機能しています。屋根形状は背後の山並みや本殿の屋並に調和するよう高さを抑えるため双頭の寄棟としています。また、ハード面のデザインの工夫だけでなく、蛇をモチーフにしたロゴや商品やメニューの開発、地元特産品のパッケージも地元デザイナーが手掛けるなど、ソフト面のデザインの充実がハードの質をより高めているところも評価のポイントといえます。そのため、参拝客・観光客が大幅に増え、ファミリー層など若い世代も多く訪れており、地域のランドマークとして岩沼のまちづくりに大きく貢献する施設となっています。

【釜石市立唐丹小学校・釜石市立唐丹中学校・釜石市唐丹児童館】

被災した小学校と児童館、半壊した中学校の全てを中学校敷地に再建した学校です。唐丹地区には小さな漁村集落が点在していますが、敷地は地区の中心的小白浜集落に位置しており海を見渡せる最上段の高台の傾斜地で、校舎は以前から存在していたかのように集落と一体となった風景を作り出しています。傾斜地に土木設計と建築設計の細やかなすり合わせを進めながら児童館、小学校、中学校と地域コミュニティ機能など5棟が丁寧に配置されています。5段の傾斜地の各高低差を利用した教室棟は室内空間が隅々まで明るく各教室の前庭と各棟間の屋外空間は有機的に連続され室内からの豊かな眺望、採光と通風の取り入れ口として有効に機能しています。庭や屋外通路は地域の高台避難経路として利用、地域のコミュニティの為の相談コーナーや備蓄倉庫、歴史資料館、集会室なども併設され防災拠点として集落の核となっています。内部空間構成と外部空間構成の細やかな計画と配慮に涙ぐましい努力が感じられます。東北建築作品賞として相応しいと評価されます。

【ロカド香久山】

ロカド香久山は、郡山市郊外の住宅地に建つ2階建14戸の民間賃貸住宅で、入居者同士のコミュニケーションを意識した中庭を囲む口の字型の住棟配置が特徴です。また近隣とのつながりを意識して、角を開いたエントランス広場を設けており、その形状が「ロカド」の名の由来となっています。さらに全戸が中庭を介するアプローチをとるコモンアクセスが導入され、入居者同士の偶発的な顔合わせを促しています。集合住宅の計画においては、いわゆる南面並行配置が一般的で、日照・通風がネックとなる口の字型は、日本においては公的な集合住宅計画で実験的に行われたケースはありますが、民間でかつ地方都市ではかなりのレアケースと言えます。プライバシー偏重の現代にあっては、理念として受け入れられても、オーナーを説得して実現するのは至難の技です。一方、同住宅のオーナーは、企画設計者の大島芳彦氏のまちづくりの思想に共鳴し、近隣で所有する集合住宅のリノベーションも実施するなど、地域まちづくりにも設計者と協働で貢献しています。

【陸前高田市立気仙小学校】

震災により高台に統合移転されたこの小学校は、校舎の連なりが町並みをつくり、地域へと広がるコンセプトのもと、横断する地域の散歩道や分棟化させた木造の校舎群、広場のような中庭等配置計画において具現化されています。普通教室棟は2学年を1ユニットで構成、教室は8m角の空間に6m角の空間を内包した形態とし、教室と連続する凸型のオープンスペースは親密なスケールと開放感を両立させた小規模校ならではの空間となっています。大屋根の下で構成された特別教室棟は、多目的スペースが町のストリートとなり、特別教室が家のように配置され、八角形の本棚など様々な居場所がある図書室、発表会など目的に応じて多目的スペースと一体化する音楽教室など段階に地域開放できる工夫もされています。鉄骨リングと木の二重架構で無柱空間を実現した風の塔は、地域の伝統文化と構法を継承する高台のシンボリック的存在となっています。小規模校の今後のあり方として、東北建築賞に相応しいと評価されました。

【弘前れんが倉庫美術館】

明治・大正期に酒造工場として建てられ、戦後は日本で初めて大々的にシードルが製造されるなど100年にも及び、近代産業遺産として青森県弘前市の風景を形作ってきた吉野町煉瓦倉庫に対して、耐震も含めた改修を行い、市民の記憶や歴史を継承する美術館として再生させたプロジェクトです。「記憶の継承」のコンセプトに基づき、既存建物の煉瓦壁、木造及び鉄骨トラス屋根の部材を最大限に活用しつつ、必要な部材を加えて巧みな耐震補強を施すことで、建物の記憶を継承しながら、美術館という新たな施設となっています。建物の魅力を生かして国内外の先進的なアートを紹介するとともに、弘前そして東北地域の歴史、文化と向き合う同時代の作品の収集・展示することで、過去から現在、そして未来へと繋がる新たな創造性を喚起する文化創造の拠点となっています。スタジオや市民ギャラリーも設けており、市民の交流の場としても活用されています。

特別賞

【副都心下の受光する住器】

この住宅は、仙台市副都心部として再開発と人口増加が著しい住宅地の「旗竿敷地」にあります。現時点では同規模の住宅や畑に囲まれています。容積率 200% の第 3 種高度地区であり、将来は採光・プライバシーの心配があったことから、壁面の開口部は最低限に抑え、独創的な断面を有したトップライトを設けています。まず、トップライト直下には熱線吸収塗料を施した曲面ミラーがあり、「熱を濾し取られた太陽光」のみが室内に降り注ぎます。そして有機的な形状の屋根裏天井は、光を乱反射し、まるで伝統的な古民家のように天井のない居住空間全体に、広く行き渡らせます。一方、棟部に溜まった熱気は、夏は開閉式トップライトから自然排熱され、冬はダクトファンで床下に誘導して上下温度差を解消しています。現地視察において、室内から見上げた時にトップライト越しにいつまでも眺めていられる空の色合いが印象的でした。このように、太陽光利用に対する挑戦的な取り組みと、実測データによる効果検証が、東北建築賞特別賞に値すると評価されました。

【山元町役場】

震災後に整備された新しい道路が緩やかにカーブする先、切り通しの隅から顔を出す控え目な存在感が、この建築のコンセプトを象徴的に示しています。深い底下空間が外周を囲う裏のない造形は、まちの未来をみんなでつくり上げていく求心的な場としての庁舎に対する解答として明快であるだけでなく、空間の活用方法や自然条件への対応等を総合的に考慮して導かれたものとして、高い説得力を有しています。内部はワンルームの中に「スモール・コア」を離散的に配置して、開放性と分節性とを両立しています。物理的な距離や視線の制御（見える/見えない）に加え、明るさや静けさの分布を設定した屋内のレイアウトは、ワンルームの中に程良いグラデーションを生み出しており、秀逸です。住民スペースの有効性等に対する評価が議論となりましたが、建設過程で繰り返されたワークショップに注がれたエネルギーや、竣工後に内部の環境を測定して設計の妥当性を検証する姿勢も含めた総合性において、東北建築賞特別賞に相応しいと評価されました。

第 42 回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長

- ・増田 聡 東北大学大学院経済学研究科地域計画研究室
- ・前田 匡樹 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻
- ・有川 智 東北工業大学建築学部建築学科
- ・石山 智 秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科
- ・新井 信幸 東北工業大学建築学部建築学科
- ・崎山 俊雄 東北学院大学工学部環境建設工学科
- ・菅原 正則 宮城教育大学教育学部
- ・馬渡 龍 八戸工業高等専門学校産業システム工学科
- ・大宮利一郎 榎楠山設計
- ・六本木久志 建築舎・アトリエ R
- ・西脇 智哉 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻

以上